

3 環境情報共有化の推進

(1) 環境情報システムの構築

<目 標>

本県ホームページの環境に関するページ「あいちの環境」の一層の拡充を図ります。

また、環境情報を効果的・効率的に運用管理するとともに、県民・事業者との連携を推進するため、従来の汎用コンピュータを利用したシステムを改め、インターネット技術などを利用した新しい環境情報システムを構築します。

【現状と課題】

昭和57年度から汎用コンピュータを活用し、環境データの収集・解析等を行い、公害防止等に関連する施策を情報面から支援してきました。今後は、環境情報をより効果的、効率的に運用管理するとともに、県民・事業者との連携を図っていく必要があります。

また、平成8年度に本県ホームページが開設された当初から環境に関するページを作成し、環境情報の提供を行っていますが、今後、情報内容の一層の充実が求められています。

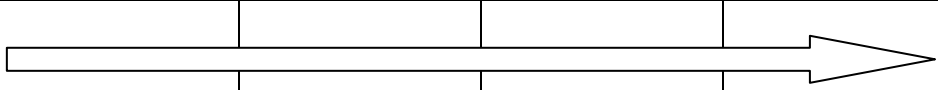
【施策の展開】

本県ホームページの環境に関するページ「あいちの環境」については、内容の一層の拡充を図り、県民のニーズに合った見やすい形での、積極的な情報提供を行います。

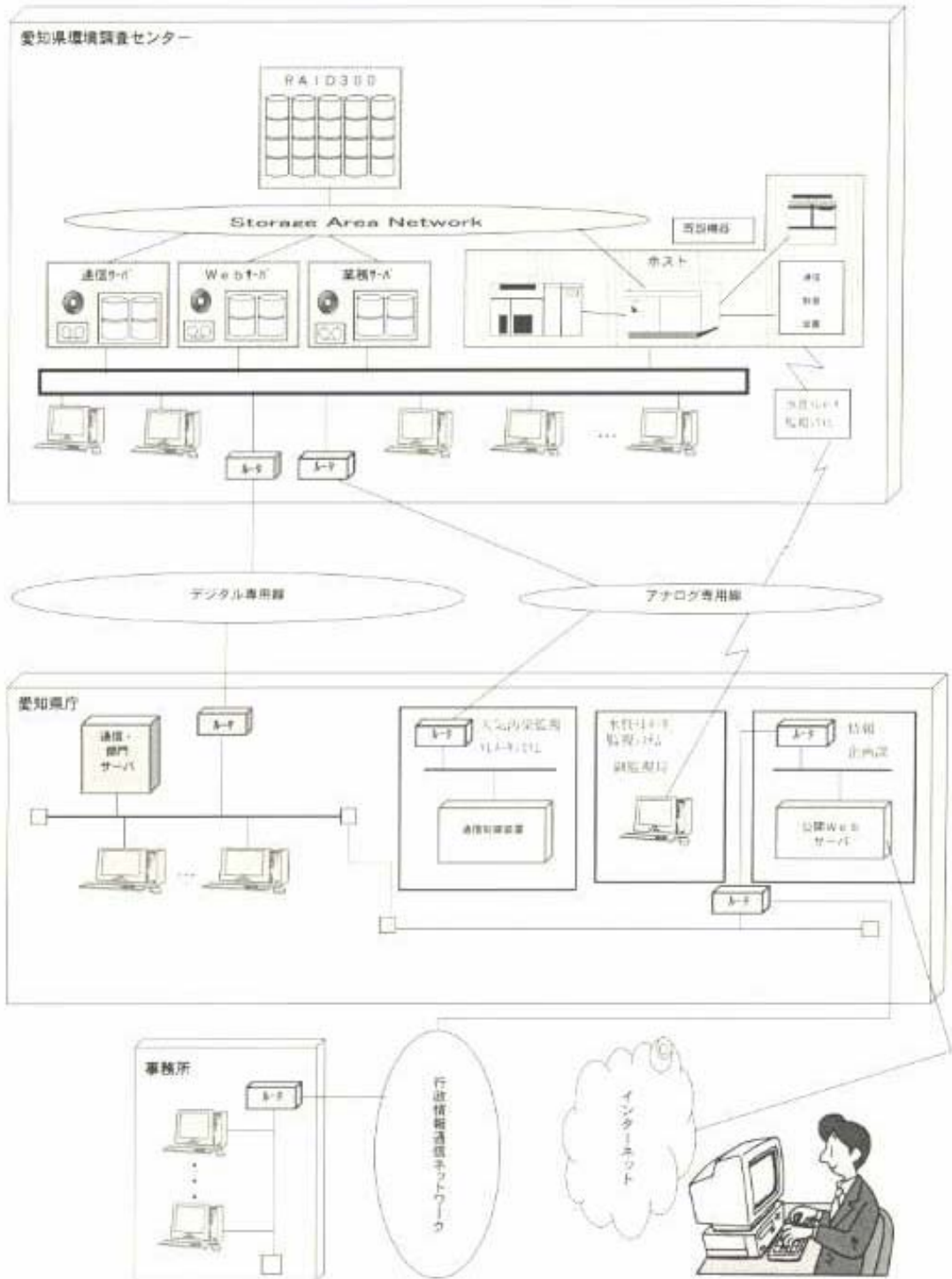
環境情報の効果的・効率的な運用管理と、県民・事業者との連携の推進のため、インターネット技術などを利用した新しい環境情報システムを構築し、順次以下の機能を拡充していきます。

- ・平成13年度から、汎用コンピュータで行っている環境データの収集・解析等を*クライアントサーバシステムで動作できるようにシステムの改良を行っていますが、平成14年度以降も引き続き改良を進めていきます。
- ・インターネットを通じて、県民や事業者に環境データを見やすい形で提供していく情報提供システムの開発を行います。
- ・地図を媒体にして、地形・地質、行政区域、道路、届出施設(大気汚染防止法や水質汚濁防止法に基づく事業場など)などのデータや大気、水質、野生生物などの環境データを統合化する*GISの整備を平成17年度までに目指します。
- ・環境関連の法律・条例に基づく各種届出などについて、インターネットなどによる電子申請・届出が可能となるよう、県全体の電子申請・届出の動きを踏まえながら、平成17年度までにシステムの整備を目指します。
- ・県内の野生生物分布情報のデータベース化を行います。

【スケジュール】

項 目	14年度	15年度	16年度	17年度
環境情報システム の構築	検討開発			

【環境情報システム構成概要図】



(2) 環境情報の提供、環境教育の推進

<目 標>

県民の環境に関する理解と関心を深め、環境保全に向けた自発的な取組を促進するために、インターネットを活用したシンポジウムや環境教育を推進します。

【現状と課題】

今日の環境問題は、日常生活や社会経済システムのあり方と密接に関わっており、誰もが被害者であると同時に加害者であり、その克服のためには、県民、事業者、行政が連携・協力して環境に配慮したライフスタイルへの転換や事業活動の推進が重要となっています。

このため、県民、事業者の環境に対する自発的な取組を促進する視点から、適切な環境情報の提供や環境教育の一層の推進が求められています。

【施策の展開】

あいち環境づくりネットミーティング

循環型社会の形成、自動車交通環境対策など環境行政における重要課題をテーマに、インターネット上で開かれる「ネットフォーラム」と、その結果を踏まえて実際に会場に参加者を集めて行う「シンポジウム」の二つから構成される「あいち環境づくりネットミーティング」を、平成14年度に開催します。

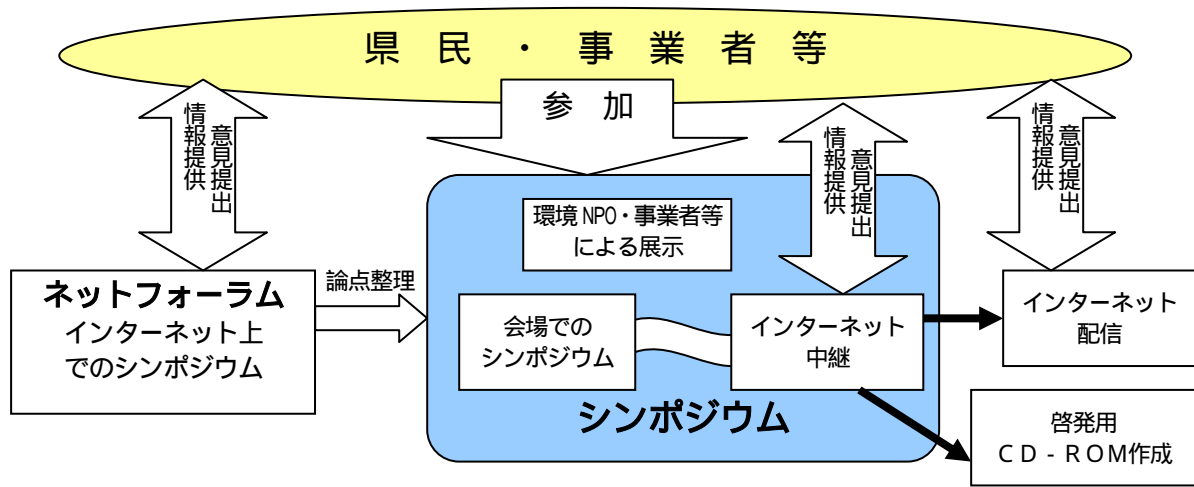
事業終了後その成果を踏まえ、インターネット上に誰でも参加できる開かれた組織「電子ひろば『あいちの環境』(仮称)」の開設を検討し、*メールマガジンによる情報提供等を通じて「あいち環境社会」づくりの実現を支えていきます。

あいちエコカレッジネット

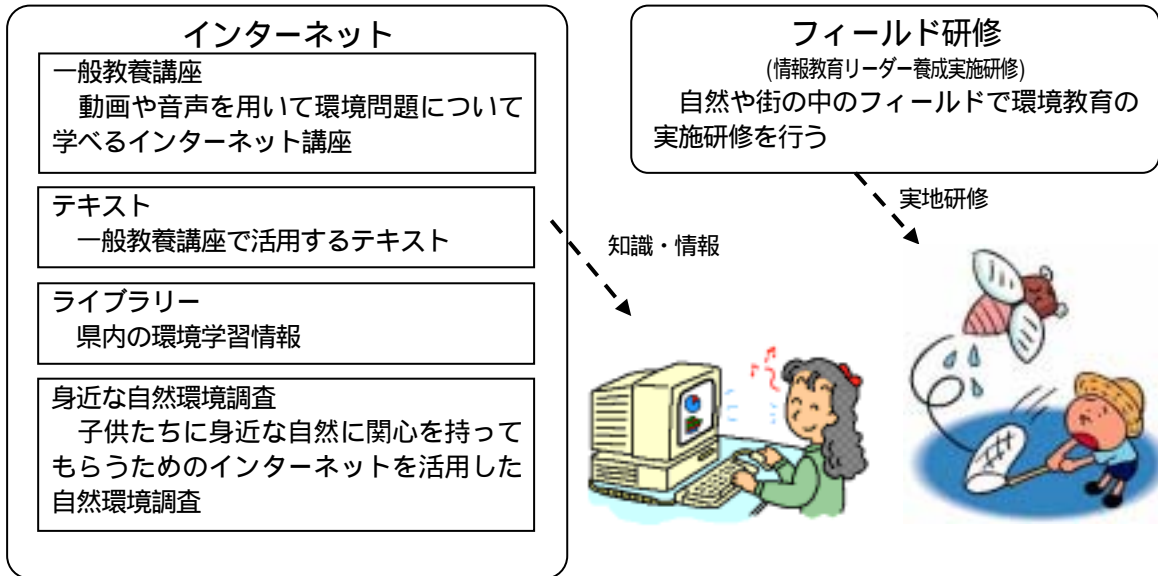
環境について学びたい県民が、気軽に学習したり、情報を得ることができる場として、平成14年度に「あいちエコカレッジネット」をインターネット上に開設します。内容は、環境問題の概要や環境保全の取組などを映像や音声を用いて解説する「オンライン講座」、県内の環境学習情報を検索できる「ライブラリー」、子どもたちに身近な自然に関心をもってもらうための「身近な環境調査」などで構成されます。

また、併せて、地域で環境教育を担っていく人材を育成するため、「オンライン講座」受講者を対象とした「フィールド研修」を実施します。

あいち環境づくりネットミーティング イメージ図



あいちエコカレッジネット イメージ図



【スケジュール】

項 目	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
あいち環境づくりネットミーティング		開催 →	電子ひろば	の検討	
あいちエコカレッジネット	身近な環境調査の実施 →	開設 →	講座の拡充	等	

4 防災、安全分野へのIT活用

(1) 防災情報システムの整備・推進

< 目 標 >

災害発生時に、県、市町村、防災関係機関との間で、被害情報・応急対策情報や各種の観測情報をリアルタイムに共有する防災情報システムを整備し、それぞれの領域における迅速的確な応急対策に役立てます。

また、県民に対しては、ホームページを通じて同様の情報を提供していきます。

整備に当たっては、ネットワーク配信の容易な*Web方式を採用し、被害状況の地理的な認識効果を高めるため、GIS(地理情報システム)を導入します。

【現状と課題】

平成12年9月の東海豪雨災害を契機に、市町村や交通機関、ライフライン機関などの防災関係機関の被害情報・応急対策状況及び県が収集した河川水位データや降雨データ等の観測情報を市町村、防災関係機関が迅速に共有することができるネットワークの早急な整備が求められました。

そこで、市町村や交通機関・ライフライン機関の被害情報や応急対策情報をリアルタイムで共有化するため、平成14年度に稼動予定の「新総合通信ネットワーク」を活用する防災情報システムを整備することとし、平成13年度にリアルタイムでの被害状況の自動集計システムを始めとしたシステム設計を行いました。

今後は、防災情報システムと既に整備済みの水防テレメータシステム、土砂災害監視システム及び今後整備予定の気象情報システム、道路情報システムなどの観測情報システムとの整合を図っていく必要があります。

【施策の展開】

平成14年度には次のような内容の防災情報システムの整備を行います。

迅速で正確な災害情報の収集・提供

各種観測情報等の提供・統合

広報情報管理

応急対策状況の把握

災害関連情報のデータベース化とオンライン参照

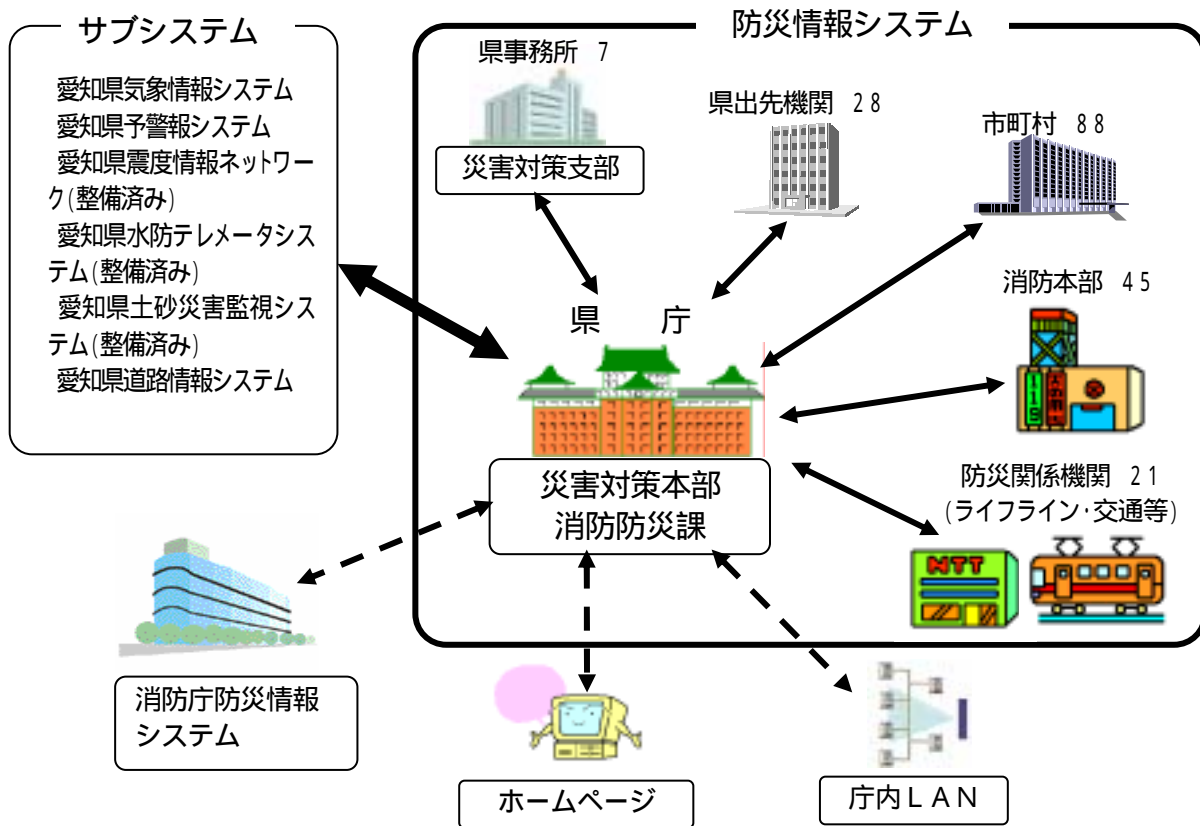
平成15年度には被害状況を地図上に表示するGISを導入します。

水防テレメータ、土砂災害監視システム、道路情報システム、気象情報システムなどの個別システムとの接続は、平成14年度においてはWeb方式のリンク処理で行い、平成15年度以降、防災GIS上で応急対策に必要な各種情報を表示するシステム整備を進めるとともに、インターネットによる県民への迅速な情報提供を図ります。

東海豪雨災害を踏まえ、新川・天白川において、新たに河川防災情報システムを、平成17年度稼動を目指し整備を行います。

愛知県防災情報システム(ADPIS)の概念図

ADPIS : Aichi Disaster Prevention Information System



【スケジュール】

項目	(~)13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
防災情報システム	設計	開発 稼動	地理情報システム		
気象情報システム・気象予警報システム	開発	稼動			
道路情報システム	実施設計	システム整備 試行	稼動		
整備済みのサブシステム 震度情報システム 水防テレメータシステム 土砂災害監視システム	平成8年から順次稼動	防災情報システムとの接続			
河川防災情報システム	実施設計	整備・開発			稼動

(2) ITの活用による交通安全の推進

< 目 標 >

交通事故の増加、交通渋滞による環境の悪化などの道路交通に関わる諸問題に対し、ITを導入することにより、安全で快適、環境に優しい交通社会を実現します。

【現状と課題】

警察庁は、ITSの一環として、交通の安全と円滑、環境の保護等を目指し、高度な交通情報提供、動的経路誘導、車両の運用管理、公共車両の優先、交通公害の低減を図る新交通管理システム(*UTMS)構想の研究開発及び実用化を推進しており、愛知県においても実用化に向けた取組みを進めています。UTMSには10のサブシステムがあり、これまで順次導入されてきました。

平成9年4月からは、交通情報提供システム(AMIS)の運用を開始し、渋滞、事故、所要時間、画像などの交通情報をドライバーに適切に提供することにより交通流の分散を促し、交通の円滑化を図っています。

平成13年3月からは、公共車両優先システム(PTPS)の運用を開始し、バス専用レーンに設置した*光ビーコンとバス車載器との双方向通信によりバスを認識し信号調整を行い、バスの定時制運行を図っています。

平成13年4月からは、歩行者等支援情報通信システム(PICCS)の運用を開始し、高齢者、視覚障害者、車いす利用者を始めとした歩行者の安全を支援することを目的として、信号の状況を音声で知らせ、また、青信号を通常的时间より延長するなど、交通事故の低減を図っています。

平成12年9月からは、緊急通報システム(HELP)の運用を開始し、交通事故発生時に自動または手動により、自動車(携帯)電話等のネットワークを通じてオペレーションセンターから事故情報が送られ、同センターから警察及び消防に緊急通報がなされています。

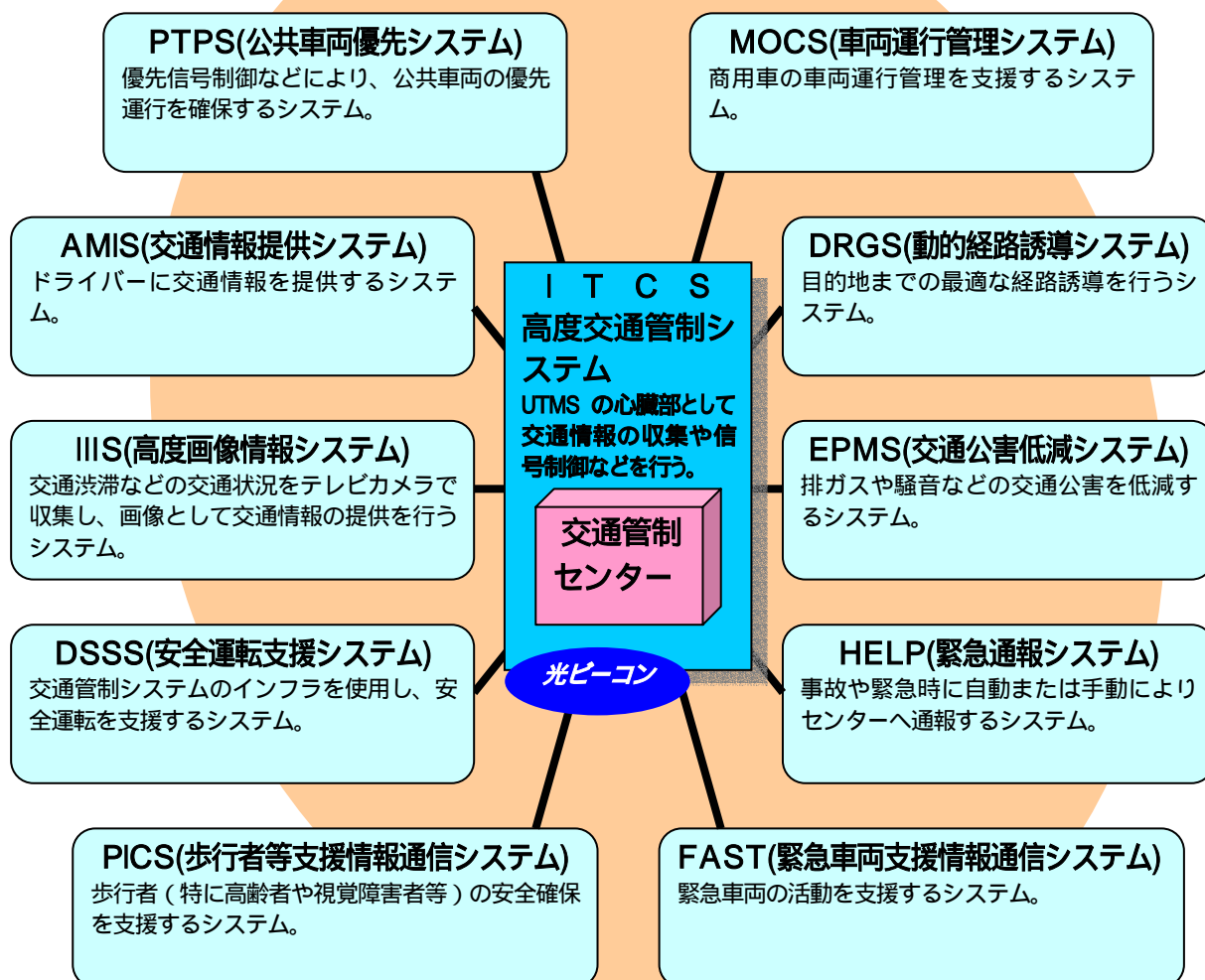
このようにUTMSのサブシステムの実用化が進んでおり、今後も総合的な観点からの推進が必要となっています。

【施策の展開】

UTMS構想に基づき、道路交通に関する情報の収集・提供や広域かつ総合的な交通管制を行うため、交通管制センター中央装置や集中制御器等を整備し、交通管制センターの高度化を図ります。また、「愛知県UTMS推進連絡協議会」のもとで他の団体等とも連携し、UTMSの実用化を推進します。

新交通管理システムのキーインフラである光ビーコンを、主要幹線道路を中心に整備拡充を進め、地域交通の実情に応じ、UTMSサブシステムの導入を更に進めます。

新交通管理システム (UTMS) 全体イメージ



【スケジュール】

項目	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
UTMS の実用化の推進	AMIS(9年度) PICS(13年度) の導入など	UTMS サブシステムに導入、 交通管制センターの高度化、 光ビーコンの拡充 など			

(3) ネットワーク社会の安全性・信頼性の確保

< 目 標 >

安全性・信頼性の高い情報通信ネットワークを構築し、情報セキュリティ意識の向上、*サイバーテロ対策の強化を図ります。

【現状と課題】

企業や自治体などが情報通信インフラを活用した事務の電子化を行い、ITの恩恵を享受する一方、脆弱なシステム構築やシステム管理者の不在等によって、*不正アクセス行為による各種情報の漏洩、破壊・改ざん事案が発生しており、今後はこれらのサイバーテロによる重要インフラ業務の停止等深刻な事態も懸念されます。

また、インターネット利用に関する様々なトラブル(*ハイテク犯罪等)が急増し、主にインターネット初心者やインターネット対応携帯電話を利用する青少年が被害者となるなどしていることから、モラルを含めたIT関連教育、広報啓発活動、相談活動等による情報セキュリティ意識の底上げが求められています。

【施策の展開】

電子自治体に必要な情報セキュリティに関する安全指針(*情報セキュリティポリシー)の確立や、産業界と連携し、安全性・信頼性の高い情報通信ネットワークの構築を図るための助言・指導、情報提供等を行います。

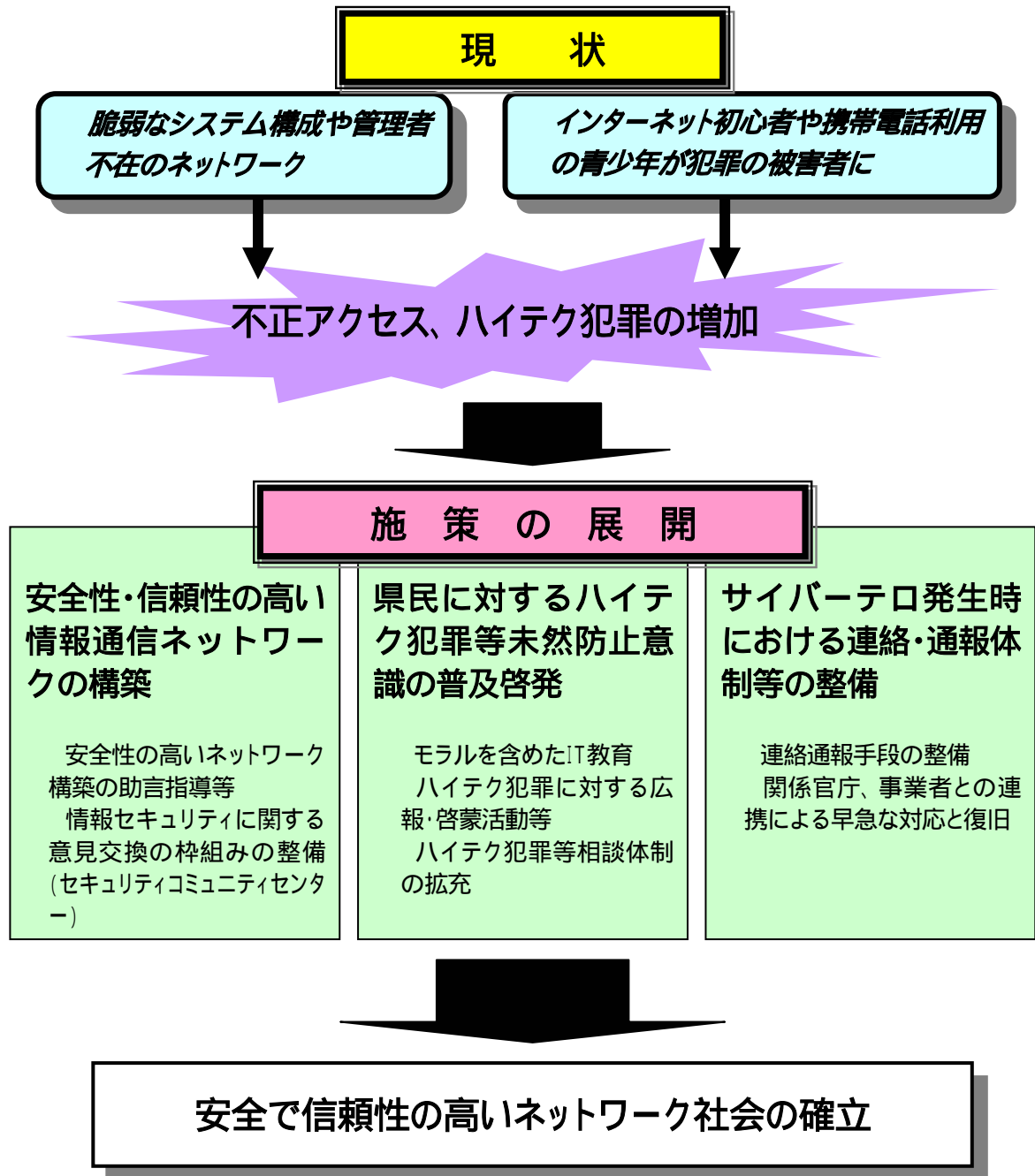
安心してネットワークが利用できる社会を実現するために、情報セキュリティに関する指針や関連情報の提供、情報交換の場として、セキュリティコミュニティセンター(仮称)の組織化を図るなど、その枠組みを整備します。

義務教育レベルからのモラルを含めたIT教育や、IT講習時等におけるハイテク犯罪等に対する注意喚起・情報提供を積極的に実施するよう努めます。

一般県民からのハイテク犯罪被害等の相談窓口を充実するとともに、県民生活プラザ、警察等関係機関が連携を図って、県民に正しい知識と防犯意識を啓蒙するよう努めます。

不正アクセス行為等のサイバーテロ攻撃による重要インフラ、基幹業務への破壊活動に対し、迅速な対応と復旧が図られるよう、官民の連絡・連携体制の構築を図ります。

ネットワーク社会の安全性・信頼性の確保のイメージ図



【スケジュール】

項 目	14年度	15年度	16年度	17年度
セキュリティコミュニティセンター	検 討	組織化・啓発		

5 観光情報の発信

< 目 標 >

2005年の中部国際空港の開港、日本国際博覧会の開催に向け、ITの進展に合わせた実験的な取組を取り入れつつ、アピール度が高くリアルタイム性のある観光情報提供システムの整備・充実を図ります。

来客の円滑な誘導を図るため、ITを活用した利便性に富んだ案内を行い、「おもてなしの風土づくり」を目指します。

【現状と課題】

本県は、豊かな自然資源、歴史と伝統のある文化財・施設、産業遺産等の観光資源を有しており、ライフスタイルの変化や交流の活発化の中で観光・レクリエーションの発展可能性は高いと考えられます。

しかし、先に本県が実施した「愛知県内における観光客の動向調査」によれば、県外からの観光客は全体の4分の1と少なく、また、そのほとんどが近県からの人で、1回の来県で見て回る観光ポイントも平均1.7ヶ所と低い現状にあります。

こうしたことから、県外や海外からの集客力強化を図るとともに、来客の滞在時間を延ばし、回遊性を高めるため、様々な情報ツールを活用した効果的な誘導(案内)を進める必要があります。

【施策の展開】

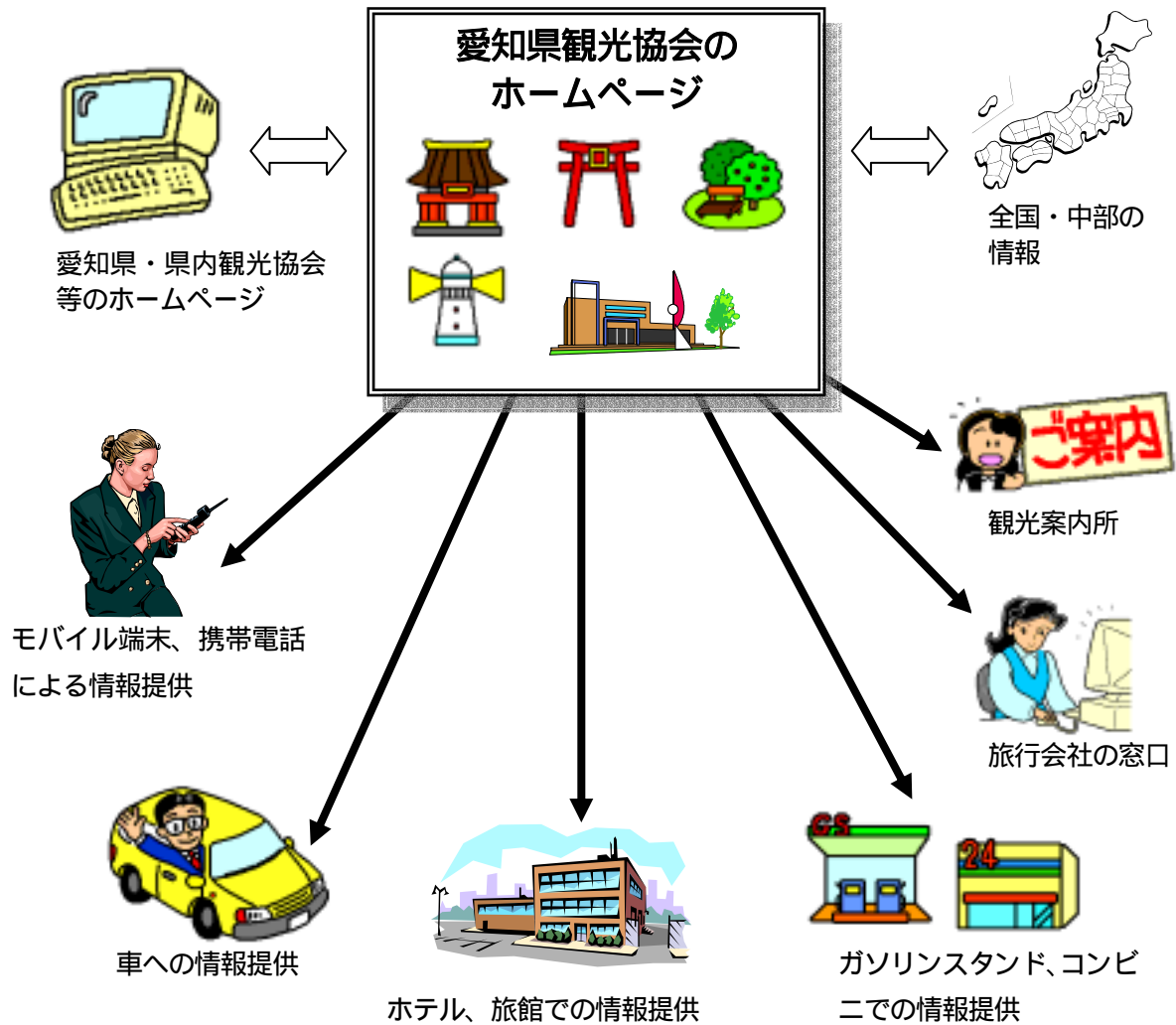
愛知県の観光情報を提供するホームページの充実を図るとともに、市町村や愛知県観光協会を核とする各地の観光協会等との情報ネットワーク化を進めます。また、外国人観光客の増大を促進するため、ホームページの多言語化を図ります。

来客が、旅行会社や観光案内所の窓口を始め、ガソリンスタンド、コンビニエンスストア、道の駅などの立ち寄り先で、情報端末を活用してインターネットから気軽に観光情報を取得できるよう、体制づくりを支援します。

インターネットやカーナビゲーションシステムなどのモバイル端末機器の普及に合わせ、タクシーなどの自動車に対する観光情報の提供についても実現に向けた取組を進めます。また、地域ごとの観光情報を充実させるとともに、デジタル映像を活用し、産業観光など、本県らしい観光をアピールします。

*モバイルコンピューターや携帯電話を使った情報提供についても、技術開発等の進展を踏まえつつ、本県の観光情報発信ツールとしての活用について調査・研究を進めます。

観光情報発信のイメージ図



【スケジュール】

項目	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
観光情報の発信		調査・検討	順次拡充		
	➔				

6 ITSの推進

(1) 地域課題に対応したITSの推進

< 目標 >

地域における具体的な課題に対応したITS導入を促進します。

【現状と課題】

多種多様な県民生活のうち移動に関わる分野にITを活用するものがITSです。本県内では、既にこれまで、各地域において具体的な取組が進められています。

道路交通等の円滑化や環境負荷の軽減という面では、*道路交通情報通信システム(VICS)をはじめ、豊田市で行われている電気自動車(EV)共同利用の実証実験や、名古屋市において運行が始まったガイドウェイバス志段味線への公共車両優先システム(PTPS)の導入などがあります。また、*ノンストップ自動料金支払いシステム(ETC)についても、平成13年7月から東名阪自動車道の名古屋西インターから三重県の亀山インターまでの間で運用が開始されるのに続き、同年11月末からは東名、名神、中央自動車道等の県内高速道路に広がっています。

安全性の面では、春日井市及び碧南市において、視覚障害者などが横断歩道を渡るときのサポートシステムとして、歩行者等支援情報通信システム(PICS)の実験が行われています。

移動の快適性・利便性といった面では、バス運行情報提供システムが名古屋市をはじめ豊田市や三好町で運用されています。特に豊田市においては、携帯端末向けにバスの位置情報のほか駐車場のナビゲーションが提供されています。また、駐車場案内システムが、名古屋市、豊橋市、岡崎市、豊田市で導入されています。その他、蒲郡市において小型カメラや*GPS機能付き携帯端末などを活用して観光情報の提供等を行うモバイル観光事業が実施されており、また、豊田市内の介護支援センターにおいては、送迎車両の位置確認や巡回先の変更指示をサポートする車両運行管理システムが導入されています。

今後も、地域課題に対応した効果的なITSを展開していくためには、技術先行のシステムではなく、それぞれの行政課題や地域のニーズに応じたITSを導入し、生活者のためのITSの展開を実現していく必要があります。

【施策の展開】

安全、環境、福祉などの多様な行政課題や地域が抱えている具体的な交通課題を、ITSを活用して効果的に解決していくため、県庁内の関係部局をはじめ県内の市町村や各種団体、愛知県ITS推進協議会などが密接に連携して取組を進めます。

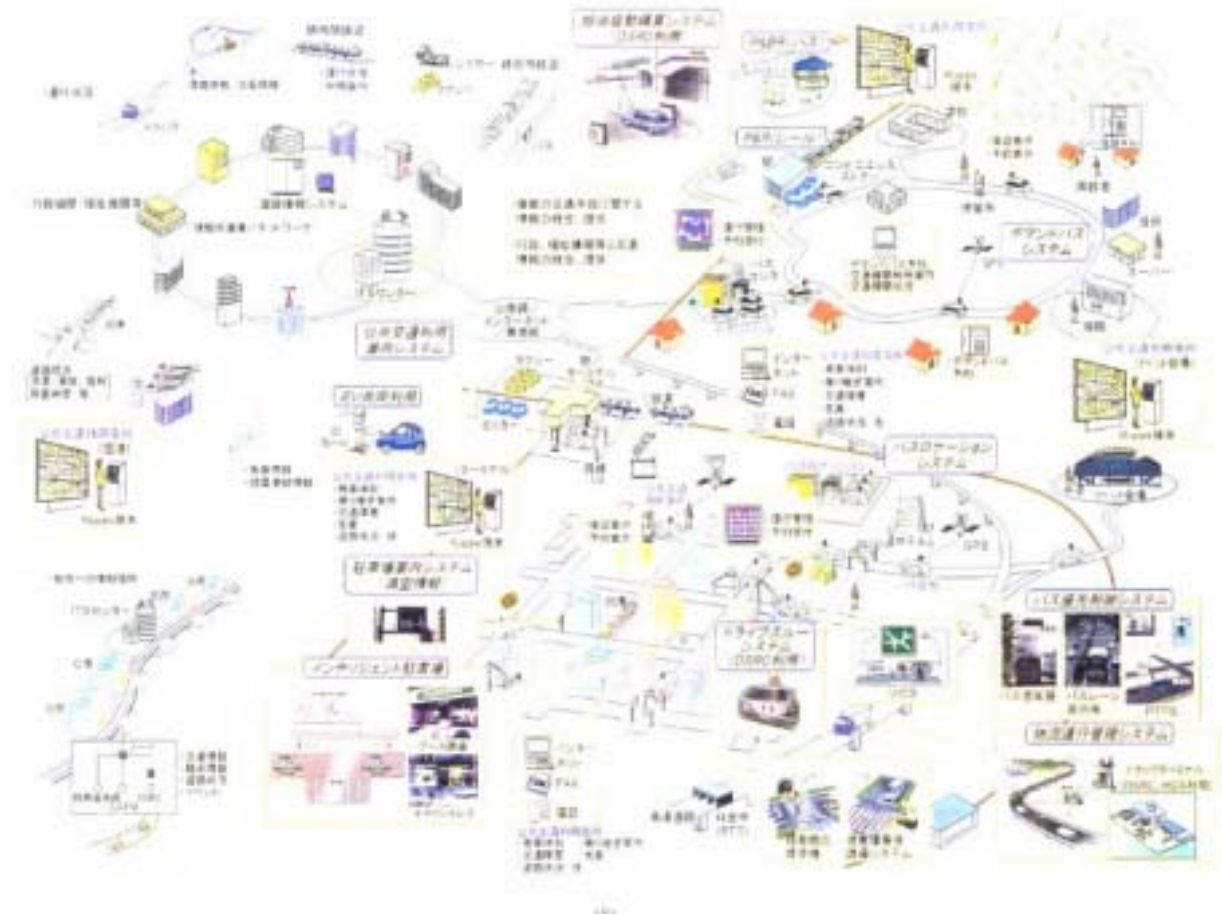
21世紀の人と環境に配慮した車社会の提案と戦略的な施策展開を図るための「あいち新世紀自動車環境戦略」を推進しますが、その施策の大きな柱として位置付けられるITSの活用に当たっては、愛知県ITS推進協議会等の積極的な協力を得ながら取り組んでいきます。

各市町村や各種団体等の取組に対し、愛知県ITS推進協議会などが支援・協力を行います。

地域におけるITS導入のイメージ

(ITSスマートタウン研究会報告書「ITSスマートタウンイメージ図」)

■ITSスマートタウンイメージ図



【スケジュール】

項目	14年度	15年度	16年度	17年度
地域の具体的な課題に対応したITS導入の促進	導入・検討 (順次)	(順次)	(順次)	(順次)
整備・運用	(順次)	(順次)	(順次)	(順次)
あいち新世紀自動車環境戦略の策定				

(2) 大規模プロジェクトを契機としたITSの推進

< 目 標 >

2005年の中部国際空港・日本国際博覧会など大規模プロジェクトを契機として、先進的なITSの導入・活用を推進します。

【現状と課題】

2005年に向けて、中部国際空港の開港や日本国際博覧会の開催という大規模なプロジェクトが進められており、これらに関連して、現在、中部国際空港株式会社や国際博覧会協会をはじめとする関係者において、先進的なITSの導入・活用が具体的に検討されています。特に、日本国際博覧会は、国の「e-Japan重点計画」において、ITSを含めたIT施策のデモンストレーションの場と位置付けられ、国家的な見地からも、先進的なITSの導入が期待されています。

愛知県ITS推進協議会では、これまでに、中部国際空港や日本国際博覧会へのITS導入について提言活動などを行っており、平成13年度には、国の地方支分部局等が参加する行政機関等連絡会議を設け、中部国際空港の開港や日本国際博覧会の開催に向けて当地域に導入すべきITS関連事業に関する具体的な連絡調整を行っています。

本県におけるITSの推進に当たっては、これらの大規模プロジェクトと絡めた形でITSを導入していくことが重要となるため、中部国際空港株式会社、国際博覧会協会はもとより国や県等の関係者の密接な連携・協力が必要となります。

【施策の展開】

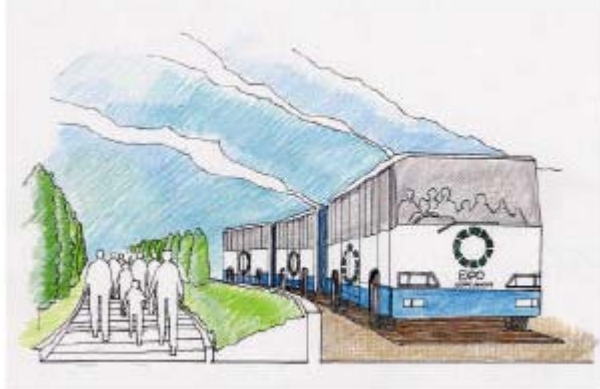
2005年の中部国際空港の開港や日本国際博覧会の開催に向けて、第二東名・名神高速道路への*スマートウェイ導入をはじめ、有料道路へのETC設置、VICSの拡充、信号制御の高度化など、中部国際空港や日本国際博覧会会場へのアクセスとなる道路側のITSインフラの整備を着実に進めます。

中部国際空港株式会社や国際博覧会協会において検討が進められているITSの導入について、県や愛知県ITS推進協議会としても支援・協力していきます。

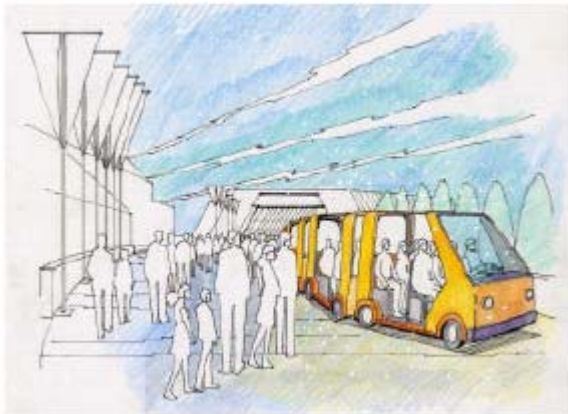
愛知県ITS推進協議会の中に設置された行政機関等連絡会議の場などにおいて、関係機関との連絡調整を図りつつ、中部国際空港の利用者や日本国際博覧会の観客などに対して、交通情報を中心とした多様な情報を総合的に提供するシステムなど、当地域での先進的なITSの導入を図ります。

愛知万博における新しい移動システムのイメージ
 (2005年日本国際博覧会基本計画より)

IMTS (最先端技術を用いた中量輸送システム) の設置



場内トラム



ピープルムーバー



【スケジュール】

項目	14年度	15年度	16年度	17年度
大規模プロジェクトを契機とした先進的ITSの導入・活用の推進	導入ITSの検討			新空港開港 万博開催
	導入ITSの整備(順次)			運用

(3) 2004年ITS世界会議の開催

< 目 標 >

2004年ITS世界会議の開催に向け、積極的な支援・協力をを行うとともに、本県らしい先進的なITSについて全国・世界に向けて情報発信していきます。

【現状と課題】

2004年秋に名古屋市内でITS世界会議が開催されることになっています。このITS世界会議は、世界中から政府関係者、学識経験者、民間企業等のITS関係者が集まり、論文発表、討論、技術展示などが行われる大規模な国際会議です。当地域でのITSの取組を全国、世界に向けて情報発信していく絶好の機会であるとともに、日本国際博覧会のプレイベントとしても重要であり、その成功に向けては、開催地として、地域を挙げた連携・協力が必要です。

さらに、ITS世界会議では、会議や展示のほかに、ITSが実際に地域社会に導入されている事例などを「ショーケース」として提示することとなり、そうした先進的なITSの地域社会への具体的な導入について、国や民間企業等の協力を得ながら取り組んでいく必要もあります。

そうしたことから、2004年のITS世界会議の開催を通じて、本県におけるITS導入を促進させるとともに、当地域のITS関連の情報発信力を高めていくことが重要であり、そのためには、世界会議の成功に向けて、開催地として積極的な支援、協力をを行うこととしています。

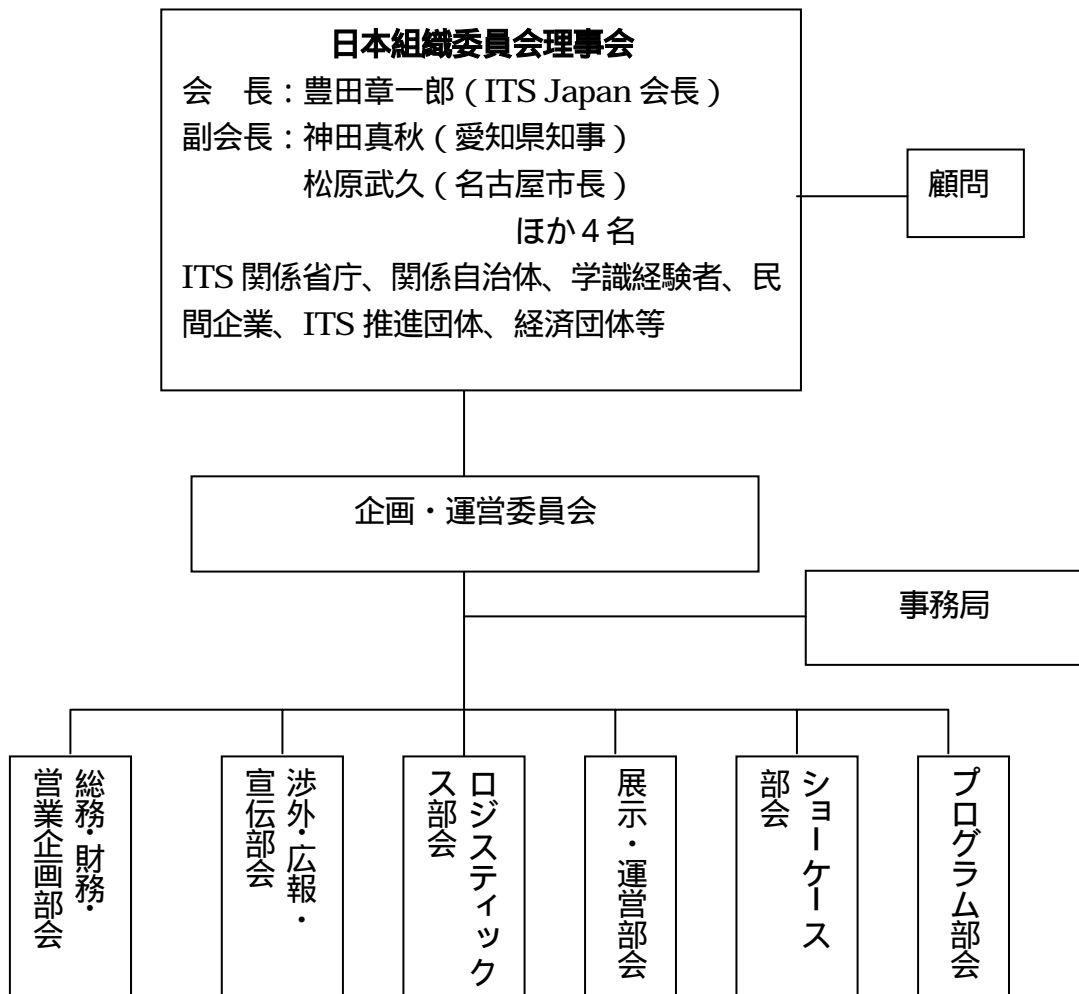
【施策の展開】

2004年ITS世界会議の成功に向けて、平成13年9月に、産・学・行政による全国的な組織として設立された「ITS世界会議愛知・名古屋2004日本組織委員会」に積極的に参加・協力していきます。

世界会議の開催時にショーケースとして提示する先進的なITSについて、ITS Japanや組織委員会などでの検討を踏まえつつ、また、国や民間企業等の支援・協力を得ながら、当地域への導入を図っていきます。

2004年の世界会議の場において、「あいち新世紀自動車環境戦略」に位置付けられる各種ITS施策など、当地域が抱える都市交通問題の解決にITSを効果的に活用した取組の成果を、本県らしいITSとして全国・世界に向けて情報発信していきます。

【ITS 世界会議愛知・名古屋 2004 日本組織委員会の組織図】



【スケジュール】

項目	14年度	15年度	16年度	17年度
2004年ITS世界会議の開催への積極的な支援・協力		開催準備		ITS世界会議
	ショーケース検討	ショーケース関係ITS整備		運用